

◀鳥帽子岳から昇る初日(草千里で)



▶ここに建つ文化の殿堂(白水村総合センター)



人情味あふれる農村

白水村は阿蘇南郷谷のほぼ中央に位置し、阿蘇山と南外輪山に囲まれた旧火口原で、東は高森町、西は長陽村、南は白川を隔てて久木野村に連なり、北は阿蘇山上、草千里、火口原を結ぶ線において阿蘇町、一の宮町に隣接しています。東西約八キロ、南北約六・六キロ、面積四十七・八八平方キロの地域で、熊本から約四十キロにあり、標高四百五十前後に耕地の大部分があり比較的平坦で、人情味あふれる純農村地帯です。観光面としては、五十一年に開通した県営阿蘇登山有料道路吉田線を「目玉」に、白川水源、孝女白菊の墓などがあります。

ンネルがあり、この道路に一つのアクセントをつけています。本村吉田の基点から登ってみると、まず水口川があり、ここは神秘的な原生林のたえずまいを今でも見せており、秋の紅葉シーズンには阿蘇山をバックにすばらしいコントラストを見せてくれます。更に登って行くと雄大な阿蘇の原野を有効に利用した約六十ha(六〇町)の「池の窪牧場」が、なだらかなスロープを描きながら目の前に広がってきます。また、この池の窪牧場近くの夜峰山頂からの展望がすばらしく、早朝には南郷谷一帯にける「雲海」も見ることができ、晴れた秋空には熊本市はもとより、遠く有明海が望めます。開通以来、こうした沿線の名所は人々に触れはじめ、訪れる観光客は日に日に増加の一途をたどっています。

といわれるイチヨウの木などがある境内の中を湧水は二方に流れ、その湧水量は毎分六十トンといわれています。あくまで透明で、湧水している付近は砂が勢いよく吹きあげ、その水に夏場は五分と浸ることはできません。冬は温かく夏は冷たく、その静かで豊かな水量は、熊本の代表的な一級河川「白川」にふさわしい源です。地元民の憩いの場としてはもちろん、近年では熊本市などからキャンプをする人たちも数多く訪れ、つかの間の心の安らぎを楽しんでいます。こうした観光客の増加にもない、村で年次計画で公園化を進めており、より充実した白川水源が完成しつつあります。

り、また送葬と社会のために終生をささげ、八十歳の生涯を閉じました。この孝女白菊の話はあまりにも有名ですが、その白菊が永眠している墓地が本村白川地区内にあります。国道325号から北へ約一キロ入った山室・河内家の墓地内であって、ここには四季折り折りの花が絶えることなく供えてあります。

ここに建つ文化の殿堂

総事業費四億八千六百万円をかけ、過疎地域総合センターが、昨年十一月に完成しました。これは本村社会開発の拠点となるように建設したもので、敷地面積七千八百四十八平方(約二、三七四坪)に二千四百八平方(約七二九坪)の建物が威容を誇っています。

孝女白菊ここに眠る

孝女白菊はその名を妙才、法名を妙喜尼といつて、里長(今の村長)山室七右エ門の長女として生まれましたが、父七右門が不慮の災難にあつて身体を自由を失い、臥床の身となります。母は妙才が十一歳のときに死亡し、残された三歳と七歳の弟二人を母の代りとなって養育し、かたわら父の面倒を見て孝養を尽します。村人たちはその孝養ぶりをたたえて「孝女白菊」と呼びました。

総合センターと名がついているとおり、この建物の中には集会ホールをはじめ、大小会議室、研修室、図書室、各種相談室、それに他町村にはあまり見られない結婚式場も備わっています。このように村民が相集う施設に更に村民の利便を図る目的で行政センター(役場)を含めたことで、名実ともに地域社会に貢献しています。ちなみに、完成後、二カ月をちょっと過ぎたばかりで、延べ利用者数は三千人をオーバーしています。

1111にある白川の源

現在、熊本市の中央を流れ、熊本県の産業に活力を与え、市民の憩とうるおいを提供している白川の源がここ「白川水源」です。国道325号から北に約二百入った吉見神社内に湧泉源があり、樹齢三百年

晩年は剃髪して河内寺(現在地名となつている)という寺を建て、村人たちのなやみごとや心配ごとの相談相手とな

総事業費五十四億六千万円を投じ、県企業局が四十八年七月から三年の歳月をかけ、完成したのが、ここ県営阿蘇登山有料道路吉田線です。幅員七、全長十三キロの間には途中のオカマド山を一気に抜けるため、八百一十一の火の山ト

遠く有明海までも

遠く有明海が望めます。開通以来、こうした沿線の名所は人々に触れはじめ、訪れる観光客は日に日に増加の一途をたどっています。